

景況レポート

(9月分・情報連絡員80名)

景況は3ヶ月ぶりに悪化

～コストアップにより収益が悪化～

【概況】9月分の県内景況は、前年同月と比較して、景況が「好転」したとする向きが17.5%（前月調査25.0%）、「悪化」が27.5%（同27.5%）で、業界全体のDI値は-10.0と、前月調査と比較して7.5ポイント下回り、3ヶ月ぶりに悪化。

内訳として、製造業全体のDI値は12.5で前月調査と比較して15.7ポイント下回った。非製造業全体のDI値は、-8.3で前月調査と比較して2.0ポイント下回った。

前月に引き続き、消費税増税前の駆け込み需要と思われる建設工事や住宅建築の動きが好調、新車販売や家電の買換需要も活発であった。反面、食料品や衣料品の生産は低調に推移した。

また、原材料や資材価格、労務単価の上昇を価格に反映させることが難しく、収益はやや悪化している。

(回答数：80名 回答率：100%)

項目	業界の景況	売上高	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員
業種	製造業	非製造業	製造業	非製造業	製造業	非製造業

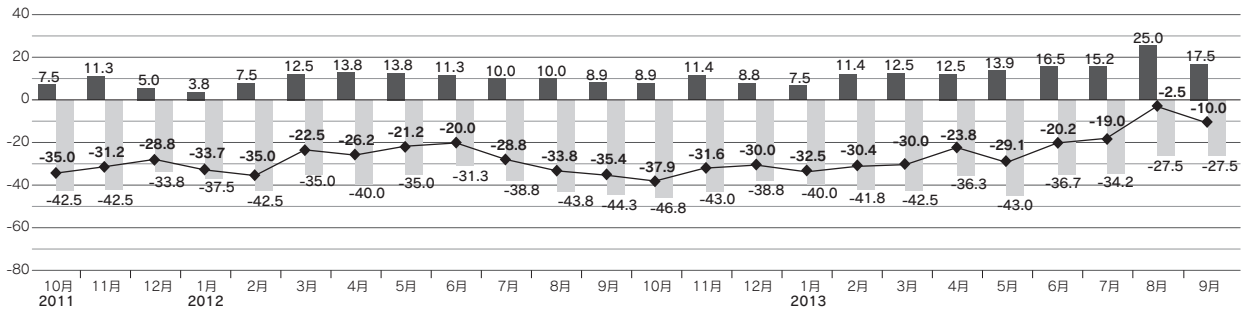
【凡例】

快晴 30以上	晴れ 10以上 30未満	曇り △10以上 △30未満	雨 △30以上 △10未満

【天気図の見方】
前年同月のDI値をもとに作成しています。

※DI値とは、Diffusion Index（ティフュージョン・インデックス）の略で、増加（好転）したとする企業割合から、減少（悪化）したとする企業割合を差し引いた値です。

業界全体好転悪化割合〔前年同月比〕



業界の声

豆腐油揚製造	円安が進み原料大豆の値上げも進行している。電気料金も上がり、最低賃金も改定される現状で、製品価格の値上げを検討しているが、取引先スーパーの力も強く交渉は難しい。
繊維製品	アパレルメーカーでは、これまでの中国生産からベトナムや東南アジアへのシフトで生産を拡大しており、より廉価の商品が市場に出回っている。消費は、物価の上昇や消費税増税から、暫く衣料品には期待が持てない。
木材・木製品	・消費税増税、木材地域型ブランド事業、木材利用ポイント事業等から国産材の需要が高まり、活発な動きとなった。 ・国内合板生産は好調を維持、出荷も順調なことから、依然として在庫量は低水準で価格は上昇傾向にある。一方、輸入合板は、港頭在庫が多く低調。
外材	9月の丸太輸入量は、米材1隻の24,322立方メートル。住宅の建築需要の勢いは、プレカット以外は落ちつつある模様だが、為替も円安傾向であることから、冬場に向けた材料確保から9月の入荷量は増加が図られた。
機械金属	仕事量が増加しており、各社とも年度内の物件は確保している状況だが、鋼材の値上がり、その他各種値上げ傾向にあり、その分を価格に転嫁できず採算面では好転とは言えない状況。
家電販売	秋冬物商品の先取り感があり、暖房器具の買換や増設、大型テレビへの買換などが見られる。
自動車販売	9月の新車販売台数は、登録自動車が2,546台（前年同月比102.8%）、軽自動車が2,863台（同138.6%）で、合計5,409台（同119.1%）と、今月も軽自動車の好調さが顕著であった。
石油販売	ガソリン1ℓあたり157円90銭で前月比20銭の値下がり、軽油1ℓあたり139円10銭で前月比80銭の上昇と、横這いで高止まりの状況。9月に入り、2週連続値下がりし、暫く小幅な値下がり傾向となる見込み。
建築設計	小型物件の発注が増えてきており、関連業界の活発な動きが見られ、回復の兆しを感じるが、契約後に材料や労務費の上昇などがあり、採算面が心配である。
管工事	公共工事・民間工事ともに増加しているが、8月の集中豪雨災害の発生に伴い、土木工不足の状況で、資材価格も上昇している。
トラック	9月中旬頃から米の輸送が始まり、米を運搬できる業者が限られているので、米以外の荷物を他の業者が受け持ち、全体的に動きが見られた。しかし、軽油価格の高騰が続く中で運賃のサーチャージは叶わない状況。